

# 和歌山の現状

## 地域性

紀の川流域 JR、南海電鉄がつながっていることにより大阪に目が向いている。  
 海岸沿い 海を生かした文化。観光分野に生かす可能性が高い。  
 内陸 世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』による観光資源をもつ。

## 少子高齢化の進行

県全体の人口は少子高齢化の進行により漸減しているもののほぼ横ばい傾向にある。ただし、過疎地域では昭和35年の35万9千人から平成17年には26万人に減少となっている。  
 なかでも29歳以下の若年層の人口が著しく減少しているのに対し、65歳以上の高齢者人口は増加している。

高齢者比率	市町村別順位
1.	古座川町 47.5%
2.	北山村 47.2%
3.	すさみ町 42.0%
・	・
・	・
28.	橋本市 25.7%
29.	上富田町 22.8%
30.	岩出市 17.7%

H25. 3. 31 現在  
 (出典：和歌山県長寿社会課 資料)

県総人口	980,116人
内、高齢者比率	28.0%

## 観光

平成24年度の県内主要観光地の観光入込客数は、平成23年度と比較して増加している。  
 既存の観光資源としては、高野山、熊野古道、那智の滝、パンダ・海水浴場、クジラ、真田幸村、濱口陵梧など。

観光客	約29,161千人	対23年比105.6%
宿泊客	約4,647千人	対23年比107.1%
日帰客	約24,514千人	対23年比105.3%

## 産業

製造業では10年間で事業所数が約32%、従業者数が約15%減少。  
 商業では卸売業・小売業ともに、平成6年と比べ、事業所数、従業者数、販売額ともに減少。特に販売額の減少幅が大きい。  
 県内の地場産業は、柑橘類、柿、梅、漁業、林業、備長炭、紀州漆器、醤油、へら竿など。

## 企業誘致

低迷する経済情勢の中、新たな就労の場を創出し、地域の活性化に繋げるため、県では企業立地促進法に基づき、「紀の川流域地域基本計画」、「紀中・紀南流域地域基本計画」に基づき企業の誘致が進められている。

## 情報戦略

県内各自治体でFacebook、Twitterなどが広く活用され始めている。また県ではインターネット放送局が開設され和歌山県の施策や魅力などの情報が発信されている。

## 広域連携

東南海・南海地震に備えた広域防災体制の整備や、物流・高速交通体系の戦略的整備のように、県域を越えての取り組みが必要とされている。

# 和歌山の戦略

## 定住促進

県内の多くの自治体で、住宅取得、出産、育児支援などの、助成制度が設けられている。  
 また橋本市をはじめ有田市、紀美野町、有田川町などでは“婚活”支援も実施。  
 このほか12の地域で過疎集落再生・活性化支援事業も実施されている。

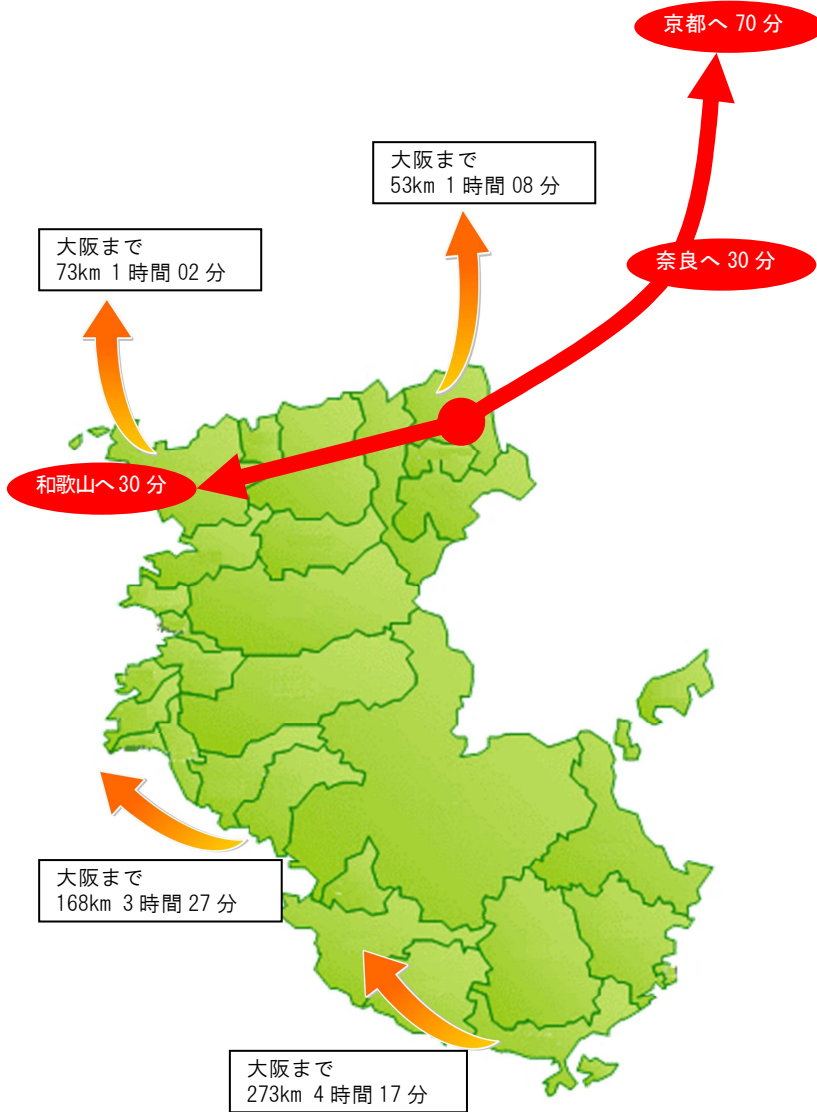
## 観光振興

平成25年の「伊勢神宮式年遷宮」に始まり、平成26年に「世界遺産登録10周年」、平成27年には「高野山 開創1200年」、「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」と大きな催事が続き、**ゴールデンイヤー**と呼ばれる3年間を迎えている。県ではこれを契機に「和歌山県観光振興実施行動計画（観光振興アクションプログラム2013）」が策定され、観光振興に取り組んでいる。

県内最大の観光資源である**世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道**を生かした取り組みが関係する各市町村で行われているほか、各自治体が有する既存の観光資源のPR活動などが行われている。  
 また新たな集客資源の開拓としてグルメコンテスト（海南市）、フィルムコミッション（和歌山市）、カヌー体験（田辺市、古座川町）、クラシックカーレース（高野町）などが行われている。

## 企業誘致

各自治体ともに企業立地促進の支援制度が設けられているが、中でも橋本市の**紀北橋本エコヒルズ**の誘致活動が活発。



# 橋本市

## 住みやすさ

育児支援助成制度や新婚世帯住宅取得補助金制度等により若年層にとって住みよいまちづくりを目指している。  
 (『週刊東洋経済8月3日号』では関西圏の出産・子育てしやすい街ランキングで2位にランクイン)  
**京奈和自動車道**(国道24号)と**国道371号**、及び**JR和歌山線**と**南海高野線**が交差する交通の要衝であることから、大阪、奈良、和歌山市が生活圏となり、利便性に関してはポテンシャルが高い。

## 和歌山県が奈良県・京都府に比べ有利だと思う点

- 特産品が豊富。
- 自然豊かで空気が新鮮。景色も素晴らしい。
- 白浜など海を活用したイベントができる。
- 土地の価格が安い。
- 空港がある。
- 工事がしやすい(京都、奈良は文化財が多い)

## 観光資源

橋本市自体には強力な集客能力を有する観光資源は乏しいが、近隣には世界遺産に登録される高野山や九度山町の真田幸村などが存在する。  
 また、**京奈和自動車道**や**近畿自動車道紀勢線**の開通により県内の時間距離が短くなり、観光・レジャーの豊富な資源を有する紀中・紀南へのアクセスも向上する。

## 和歌山県が奈良県・京都府と比べ十分に整備できていない点

- 観光地が少ない。
- 県のPR活動が不十分。
- 交通網が十分に整備されていない。
- 田舎を生かしきれていない。
- ショッピングモール等の娯楽施設が少ない

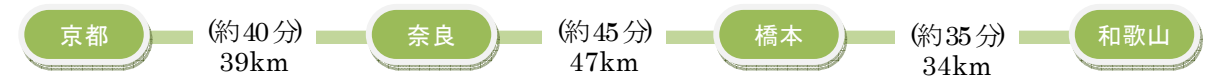
## 企業誘致

平成24年度末時点で紀北橋本エコヒルズに17社を誘致(橋本市内全体では22社)  
**京奈和自動車道**の開通によるアクセス向上、低廉な分譲価格、充実した奨励金と税優遇がメリットになっている。

## 和歌山県における京奈和自動車道がもたらす効果について

### 1. 移動時間の短縮

～京奈和自動車道（将来全線開通時）～



京奈和自動車道の開通で、京都市～橋本市間（約 180 分から約 85 分）、奈良市～橋本市間（約 105 分から約 45 分）、橋本市～和歌山市（約 90 分から約 35 分）と、移動に要する時間が約半分になり大幅に短縮される。

また、西名阪自動車道（名阪国道）との接続により、中部圏との新たなネットワークを形成することができることと、阪和自動車道との接続によって、橋本市が位置する紀北地域と紀南地域とを高速道路で移動することが可能となり、和歌山県内の移動時間も短縮される。

和歌山県は、京奈和自動車道の開通により、他府県または、県内の広域移動が容易になり、交流が可能となる圏域が拡大するというメリットがある。

### 2. 交通渋滞緩和

都市間の交通手段が京奈和自動車道の開通により高速道路へ転換し、通過交通が減少するため、一般国道 24 号の渋滞緩和が予想される。

### 3. 京奈和自動車道の利用経費

京奈和自動車道は一般国道 24 号の自動車専用道路として、国道交通省が直轄で整備を進めているため、一部の区間（城陽 IC～木津 IC 普通車料金 700 円）を除いて無料で利用することができる。

広域を移動する場合、道路の利用者における経路選択について、利用料金は、経路を選択する大きな要素である。

和歌山県において、東西を縦断する京奈和自動車道は料金が無料で利用できるメリットがあり、利用経費の視点から従来の阪和自動車道などを利用した大阪経由のルートからの転換が期待できる。

また京奈和自動車道は、利用経費の視点からも物流の輸送コストの削減や通勤圏の拡大、交流人口の拡大による観光振興など、和歌山県にとって大きな効果がある。

橋本市においても、和歌山県を来訪するルートが京奈和自動車道へ転換することで、和歌山県の玄関口として、来訪者の増加が予想される。

### ～中部圏からのアクセス費用の比較～

名古屋 IC～和歌山 IC を例として

経路①（東名～名神～近畿～阪和ルート）



経路②（伊勢湾岸～東名阪～名阪国道～西名阪～阪和ルート）



経路③（伊勢湾岸～東名阪～名阪国道～京奈和）

